

前富士見町長 小林 一彦

退任のご挨拶



2期8年町長の役目に全力を傾注し勤められたことは、町民の皆様を支えて頂いたおかげと心から感謝致します。

私は今迄、素晴らしい景観・文化・歴史を守り、しっかりと町づくりをしてきた諸先輩方、町職員、町民の皆様のご成果を尊重し継続すると同時に、私自身世界企業を相手に最先端技術、ビジネスで培った知識経験、感性を最大限に引き出し改革・改善を実行することに努めました。

現在、就任時のパノラマの借金35.2億円の返済は完了し、土地開発公社の17.9億円の借金は早期に決断したメガソーラーが全額返還できるペースで安定して発電をおこなっています。

また、福祉事業でも急速に進む高齢化の中、施設整備も必要となり、国の補助金を獲得し、新清泉荘の建設及び一本松の家の建設を行い、高齢者の安心を高めてきました。

子育て支援を強化し、行政が母親代わりを一部担うという考えで、子育てにも力を入れています。町でも0～2才の未満児保育のニーズが高く、希望する全員の保育を受け付けているほか、病児保育や延長保育も実施しています。その結果、女性の社会進出、産業界の労働力不足の解消に向けた効果が上がっています。

さらに、私は町民の皆様のご健康に強い関心を持ち、自分で予防する様々な仕掛けを用意し実行していただきました。その結果、健康管理を勉強し改善する意識が浸透し、この2、3年間の医療費は大きく減少しました。また、国保料は下がりかつ健康寿命延伸を実現することも出来ました。

以上、様々な政策によって、住み良い町づくりが進んだと確信しています。

これからの最大の問題は少子高齢化・東京等への転出による厳しい人口減少が続いている事です。町では平成27年度に地方創生5か年計画を策定し、5年間の人口減をゼロに抑える具体的な目標を掲げました。森のオフィスを建設し、IT企業や個人IT事業者の誘致をしています。その他にも新規就農者の誘致、一般の方の移住促進、子供の人数増等具体的な数値目標を設定しています。これは役場職員・外部有識者・コンサルを中心に、議員の方とも議論して実現の可能性があるものとしてまとめました。そして現在、役場職員・町民関係者が一丸となって施策を実行中です。

私は富士見の将来は本計画の完遂にかかっていると思います。皆で心を合わせ、脱人口減を目指し、より魅力ある住み良い町づくりに挑戦して頂く事を祈念し、町長退任の言葉と致します。

本当に充実した8年間、誠にありがとうございました。

